

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水/4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	暮らしと地球環境学 Human Life and Environmental Problems		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 担当教員:上江田一雄 /Eメールアドレス:kazuou@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部 424-1 号室 /TEL:095-819-2744 /オフィシアワー:特別に設けないので、質問等のある受講者は、前もって電話等でアポイントメントをとってから来室すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	後藤恵之輔(非常勤), 上江田一雄(環境科学部)		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: この地球には人間のみならず生物、植物等が生息しており、互いに影響しあって生存している。その地球が危機に瀕している。温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化等の地球環境問題によってである。しかし、地球はこのような地球規模のものだけでなく、ごみ問題等の地域の環境問題によっても次第に汚染されてきている。本授業では、これら環境問題を地球かつ地域規模で学び、暮らしの中でどう対処していけばよいのかを考える。 授業方法: 授業は、テキストを中心として、パワーポイント、OHP、スライド、ビデオの視聴覚機器を駆使し、配布資料を時には利用しながら、行っていく。 授業到達目標: 地球温暖化などの地球規模の環境問題、ごみ、地下水汚染などの地域の環境問題について、それらが決して遠い存在でなく身近な問題であるとして学ぶとともに、それらに暮らしの中でどう対処していけばよいのか、さらに生物の生息する環境をどのように再生、創造すればよいのか、方法等を身につけられるようにしたい。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 最近の環境問題に関する話題を題材として、環境問題が地球規模であれ、地域規模であれ、我われの「身近な」問題であることを認識することから講義を始める。 地球環境問題として地球温暖化、酸性雨、砂漠化、熱帯雨林の減少、野生生物種の減少、オゾン層の破壊、海洋汚染を取り上げ、地域環境問題として自然災害、水質汚染、地盤・地下水汚染、ごみ問題を扱って、これらを地球環境問題と絡めながら論じる。さらに都市の人口爆発、アスベスト問題、感染症も、最近の環境問題として述べる。 これら環境問題はややもすればマイナス思考になりがちだが、このことを考慮しながら、プラス思考のこととして生物生息環境の保全・再生・創造に関するビオトープ、近・多自然型川づくり、エコロード、ミティゲーションを講義する。 第1回 : オリエンテーション(最近の環境問題に関する話題から)(後藤・上江田) 第2回 : 地球温暖化(後藤) 第3回 : ヒートアイランドとエルニーニョ現象(後藤) 第4回 : 自然災害(後藤) 第5回 : 酸性雨(後藤) 第6回 : 砂漠化、熱帯雨林の減少、日本の植生(後藤) 第7回 : 野生生物種の減少、生物多様性(後藤) 第8回 : ビオトープ(その1)生物生息環境の保全・再生・創造(後藤) 第9回 : ビオトープ(その2)近自然型川づくり、多自然型川づくり(後藤) 第10回 : ビオトープ(その3)エコロード、ミティゲーション(後藤) 第11回 : オゾン層の破壊(後藤) 第12回 : 海洋汚染、水質汚染、地盤・地下水汚染(後藤) 第13回 : ごみ問題、都市の人口爆発(後藤) 第14回 : アスベスト問題、感染症(後藤) 第15回 : 循環・共生型社会(上江田)			
キーワード	地球環境問題、地域環境問題、生物生息環境の再生・創造、都市問題、アスベスト、感染症		
教科書・教材・参考書	テキスト: 後藤恵之輔・後藤健共著『暮らしと地球環境学』(仮題)(電気書院、平成20年4月発行予定) ただし、使用テキストの変更の可能性があるので注意すること。 教材: 配布資料		
成績評価の方法・基準等	毎回提出のレポートによって成績評価を行う。 レポートには、講義の概要とコメントを書くが、時には指示により、講義概要の代わりに宿題が出されることがある。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	関連する全学教育の科目として、「火山と災害」(1年前期)があるので、受講しておくとうい。		
備考(準備学習等)	「21世紀は環境の世紀」と言われるほど、世界や日本の環境問題が毎日のニュースに取り上げられることが多いので、日ごろの新聞・テレビのニュースに気をつけること。		